

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|-----------|------------|
| 事業所番号 | 3570101448 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 暁会 | | |
| 事業所名 | グループホームフェニックスの里 | | |
| 所在地 | 下関市大字小野64-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年6月28日 | 評価結果市町受理日 | 平成28年12月7日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク | | |
| 所在地 | 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年7月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の移り変わりを肌で感じられる環境の中で、笑顔のあふれる心穏やかになる生活空間を提供できるよう環境の整備に力を入れています。今年は特に香りに力を入れています。居間に香りのするデュフザーを設置し、アロマの入浴剤を使用して、3食ご飯の炊ける匂いがする環境になっています。春夏秋冬それぞれに季節の行事を行い、毎月の外出行事を行っています。また、地域の文化祭や祭りなどの地域の催しなどに極力参加に努めています。近所の方から農作物を頂くことがあれば入居者と一緒に調理をしたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部研修は、職員の希望や段階に応じて参加の機会を提供され、高齢者虐待や認知症高齢者の理解とケア、モチベーション研修等に5回参加しておられ、法人研修は介護福祉士や介護支援専門員の資格取得研修の他、接遇、救急救命法などに参加されて、受講後は復命報告をして職員間で共有しておられます。内部研修は年間計画を立てられ月1回、職員が交代で講師を務めて実施されている他、新任職員は、日常の業務の中で先輩職員の指導を受けながら働きながら学んでおられるなど、職員を育てる取り組みをされています。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立てられ、家族アンケートを実施しておられる他、家族参加の行事や面会時に家族からの意見や要望が出やすいように工夫されて、意見や要望を聞いておられ、出された意見や要望を職員間で共有されるための申し送りノートや家族伝達表を作成して活用され、娘の帰省時に自宅で一緒に過ごされる支援つなげておられるなど、利用者の思いや家族の意見や要望の把握に努められ反映しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|--|-----------------------|---|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 58 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21) | | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 63 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 定例会議やミーティング等で理念や問題点を話し合う機会を持ち、理念を掲示し、地域密着型サービスの意義を理解する様努めている。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、事業所だよりも掲載している。月1回の定例会や毎朝のミーティング時、日常業務の中で管理者と職員は話し合っ確認し、共有して、理念の実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 勝山小学校の交流学習での交流や地域の文化祭に作品の出品、農園での野菜作り、水田作りに地域の協力を得ている。散歩等で近所の方と話をしたり野菜の差し入れを頂いたりしている。 | 自治会に加入し、草取りに職員が参加している。地域の文化祭に利用者の貼絵やぬり絵の作品を出品している。法人の夏祭りや文化祭に地域の人や子供達の参加があり、利用者も参加して交流している。法人の農園の米づくりや野菜づくりに、地域の人との協力があり、利用者も収穫に参加して交流している。傾聴ボランティアや小学生(交流学習)の来訪がある。散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、地域の人から野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 夏祭りや文化祭等に入居者の演技で出演や作品の出品する事により、また、運営推進会議で地域の方に認知症の理解や接し方について話す機会を持つことができている。 | | |
| 4 | (3) | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 評価の意義について会議で話し合い全職員が自己評価表に記入し、評価で不足していた本人家族の意向の把握に関し満足度調査で様式を変更し意向の把握ができるようにし、意見を取り入れるようにしていく。また、ご家族が来所した際は意見を聞ける機会を持っている。 | 管理者は、評価の意義について職員に説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、管理者と職員が話し合っまとめている。前回の評価結果を受けて、目標達成計画を立てて、利用者や家族の意見や要望の把握に努め、家族の要望を職員間で共有するために申し送りノートや家族伝達表を作成するなど、できることから改善に取り組んでいる。 | ・全職員による評価の意義と項目の理解 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で昨年の資料を提示し外部評価についての説明して、入居者の状況などを報告し地域の方の意見をグループホームの活動に活かしている。 | 会議は2カ月に1回開催し、行事予定や活動内容、業務内容、入居者の状況、外部評価等について報告し、話し合いをしている。民生委員の情報提供で全国一斉のスポーツイベント(チャレンジデー)に事業所として参加し、新聞に掲載されているなど、意見を活かしている。 | ・議題の工夫 |
| 6 | (5) | ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市介護保険課や地域包括支援センターとの情報交換や相談連絡を行っている。 | 市担当職員とは、運営推進会議時の他、介護保険の更新手続きなどで出向いたり、電話やFAXで相談をして助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に利用者情報等について相談や情報交換をしているなど、連携を図っている。 | |
| 7 | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内外の研修や勉強会で学習し、全員が身体拘束をしない介護ケアに努めている。また天気の良い日は本人の希望を聞き自由に散歩できる環境になっている。 | 外部研修や内部研修で学び、職員は理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出したい利用者とは一緒に出かけるなどの工夫をしている。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。 | |
| 8 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会や勉強会で職員相互が学習する機会をもっている。定例会議で利用者の状況について意見を出し合い虐待が見過ごされないよう注意を払っている。 | | |
| 9 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修や勉強会で学習し、全職員が必要性を理解している。 | | |
| 10 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結時に契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて十分説明している。また、顧客満足度アンケートにサービス内容の説明の良し悪しの意見を聞く項目を入れ意見を聞く様になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約時に相談や苦情の受付体制や苦情の処理手続きについて説明すると共に玄関にポスターやご意見箱を設置し、法人のアンケートなども実施し定例会議や運営推進会議に意見を吸い上げるよう努めている。 | 契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて定め、本人や家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。家族アンケートを実施している他、家族参加の外出行事や面会時等で家族が気軽に意見を伝えられるように工夫して、家族の意見や要望を聞いている。職員間で家族の意見を共有するための申し送ノートや家族伝達表を作成して活用し、利用者の思いや家族の要望を把握して、意見の反映に努めている。 | |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の定例会議や毎朝のミーティング等で意見や提案を聞き、グループホーム内で解決できるものは実行し、法人全体に関係する事は職員代表者会議にて報告し、運営に反映できるようにしている。 | 管理者は月に1回の定例会議や毎朝のミーティング時、日常業務の中で職員の意見や提案を聞き、法人の職員代表者会議で話し合っている。遅出勤務職員の安全面を考慮した専用駐車場の確保など、意見や提案を反映している。 | |
| 13 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 適材適所に配置し各自がやりがいを持って働けるよう役割担当を持ち、自己研鑽できる環境作りに努めている。 | | |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修や事業所の研修に参加し、外部研修研修報告書を提出し、定例会議で報告し、業務に役立てられるようにしている。 | 外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供し、高齢者虐待、認知症高齢者の理解とケア、モチベーション研修等に勤務の一環として5回参加している。受講後は復命報告をし資料は閲覧している。法人研修は介護福祉士や介護支援専門員の資格取得研修や食中毒、接遇、口腔ケア、救急救命法、リスクマネジメント、介護事故防止等に参加し、受講後は復命報告をしている。内部研修は年間計画(毎月)を作成し、職員が交代で講師を務め、身体拘束、権利擁護、ノロウイルス、インフルエンザ、応急手当と救命処置等を実施している。新任職員は、日常の業務の中で先輩職員の指導を受けながら、働きながら学べるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内やグループ内の研修に参加したり、山口県人づくり財団等の開催する外部研修に参加し、交流する機会を持ち意見交換するなどして、サービスの向上に取り組んでいる。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 16 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 新規に入居した場合、まずは利用者との信頼関係を作るよう、担当の職員だけでなく、全職員で声掛けし、積極的に触れ合う時間を持ち、本人の嗜好や要望や思いを取り込めるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時には必ず家族の要望や意見を聞き、入居後も面会時間の緩和や面会頻度等の要望を受けコミュニケーションを図る関係づくりに努めている。 | | |
| 18 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面接時に本人の状態や家族、病院等の担当者の話から必要な事項を見極め、他のサービスが必要な場合は法人内で対応できる体制をとっている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 可能な限り食事や掃除などできることは一緒に行い、昔の事や生活の知恵等教えて頂き、共に支え合う関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者の日々の状況や体調などを必要に応じて報告し、また病院受診時や外出行事等可能な限り同伴して頂き、入居者を共に支えていく関係作り努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 隣接する通所施設の馴染みの人に会いに行ったり、冠婚葬祭等の外出の機会を作って関係維持の支援に努めている。 | 家族の面会、親戚の人や近所の人、友人、知人の来訪がある他、電話、手紙、年賀状での交流を支援している。自宅周辺のドライブや娘の帰省時に自宅で(1週間程度)一緒に過ごしている他、家族の協力を得て外出、外食、外泊、馴染みの美容院の利用、墓参り、結婚式、法事への出席など、馴染みの人や場の関係継続の支援をしている。 | |
| 22 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の相性や性格を把握し、職員が側に寄り添いながらお互いに支え合う関係作りに努めている。 | | |
| 23 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も希望があればできるだけ対応できる旨を退去時に伝えると共に、関係施設に入居された場合は面会に行くなど、経過を確認している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 24 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の中、朝のティータイムの時間、午後のお茶の時間に側に寄り添い本人の希望や意向を聞く機会を持っている。例えば外出の希望や帰宅願望など家族に伝え、協力をお願いしている。また、アンケートなども定期的に行い意向の把握を行っている、。 | 入居時のアセスメント(個人台帳に生活歴、趣味、身体状況、食事、入浴等)を活用している他、日常の関わりのなかでの利用者の様子や言葉、表情等を看護、介護記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。 | |
| 25 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に家族や入居前のサービス提供施設などから生活環境等の情報を収集し、入居後も日々の生活の中から再アセスメントを行い職員相互間で把握できるようにしている。 | | |
| 26 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活の様々の場面において観察し、記録に残し、申し送り等を通し、現状把握に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月の定例会議とカンファレンスで入居者の状態について意見交換を行い、また家族の希望や意向を訪問時や電話等で聞き、モニタリングを行い介護計画に活かしている。 | 計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や訪問看護師、職員などの意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。介護チェック表を活用して3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月ごとに見直しをしている他、利用者の状態の変化や要望に応じて現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 28 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別介護看護記録に日々記録し、また介護表に一カ月の推移を記録し、職員間で情報を共有し日々の介護や介護計画に反映している。 | | |
| 29 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々のニーズを把握し、可能な限り対応できるように努めている。 | | |
| 30 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 農園作業や草刈り作業への協力要請などを通じ地域の人達との関わりや楽しみのある暮らしを支援している。 | | |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の訪問診療と電話による相談をお願いしている。情報は医師、家庭、職員で共有している。また、必要に応じて他科の受診の支援も行っている。 | 協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診と週3回の訪問看護師の来訪がある。他科受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。家族に受診結果を電話や面会時に伝えている。職員間では介護、看護記録に記載し、申し送り時にも共有している。緊急時には協力医療機関と連携して対応しているなど、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 32 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 他部署の看護師と職場内の看護師は連携しており、介護職は日々の状態を伝え、指示や助言を受けて入居者の健康管理を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|---------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | かかりつけ医とは日頃から連絡や相談を行っており、入院退院時には情報提供や情報交換を行い、カンファレンスに参加し、入居者が安心できる環境をつくる支援をしている。 | | |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に施設の方針を説明しており、職員間でも情報を共有し、運営推進会議等で話題が出れば十分説明し支援に取り組んでいる。 | 契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて事業所でする対応について本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師、職員等で話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。 | |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | ヒヤリハット報告書や事故報告書の記録をもとに再発防止に努め、新入職員については必ず参加して施設内研修によりAED使用訓練、緊急時対応、応急手当の方法などを身につけている。 | 事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書にその日の職員で対応策を話し合って記録し、朝のミーティング時に、申し送り簿で報告している。月1回の定例会議時に再検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、法人研修で食中毒、救急救命法を学んでいる他、内部研修で応急手当と救命処置等を実施しているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。 | ・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続 |
| 36 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼夜の防災訓練を防災マニュアルに従って、消防署の協力を得て行っている。 | 消防署の協力を得て、法人施設合同で年1回、昼間想定火災時通報・消火・避難訓練を実施している他、法人で夜間想定通報・消火・避難訓練を実施している。消防署の要請で法人施設を利用して消防署員や消防団、法人の職員が参加しての訓練も実施しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。 | ・地域との協力体制の構築 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 37 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 施設内研修やグループ内研修に参加し、会議で全職員に重要性を説明し、理解できるよう配慮し一人ひとりの人格やプライバシーを損ねない対応を行っている。 | 法人の接遇研修に参加し、復命報告をして共有し、職員は理解して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉かけをしている。個人情報管理し、守秘義務について遵守している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の生活の中で好きな事、したい事などを問いかけながら、また意思表示の困難な方には表情や行動を観察しながらその人らしい生活ができるよう援助している。 | | |
| 39 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの希望や生活習慣を大切に、昼寝を習慣している人や朝が弱い方などその人らしい過ごし方ができるよう援助している。 | | |
| 40 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望があれば行きつけの美容院に行って頂き、毎月来ている移動美容室に申し込み好みのカットができるようにしている。洋服も好みの洋服を訪ね来て頂く様にしている。 | | |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 居間から見えるキッチンで配膳し、ご飯の炊ける匂いが居間に届くようになっている。また、食前のテーブルの準備を手伝って頂いたり、食後の下膳、食器洗いを一緒にいき食事の楽しみを共有できるように支援している。 | 昼食と夕食の副菜は法人からの配食を利用し、朝食とご飯は事業所で調理している。利用者の状態に応じて形状の工夫をしている。利用者はテーブル拭き、ランチョマットの準備、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ゼリー、ジャム、カップケーキなど)、季節の行事食(節句、ひな祭り、そうめん流し、栗ご飯など)、家族参加の夕食(年10回程度)をしているなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。 | |
| 42 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の食事量、水分摂取量の記録を行い、居宅療養管理指導を受けている管理栄養士による栄養指導の助言をもらっている。 | | |
| 43 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアを行い、就寝前には口腔洗浄を行うと共に、義歯を預かり消毒洗浄し衛生管理をしている。また食前に嚥下体操を取り入れ口腔ケアに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェックを実施し、排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導でトイレでの排泄ができるよう支援している。 | 排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、習慣を活かして、言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 | |
| 45 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立や水分摂取の工夫を適切な運動を行い、介護表に記入し、日々の排泄パターンを注視し、便秘が疑われる時は医師に相談し排便が誘発されるようにし、適時の声掛けによりと排泄誘導により自然排便を促している。 | | |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は毎日可能で、本人の希望や体調によりシャワー浴や清拭の対応も行っている。また、アロマの入浴剤を使用し、希望に沿った入浴を行っている。 | 入浴は毎日、10時30分から12時の間可能で、利用者の希望に合わせてゆっくり入浴できるよう支援している。季節に合わせて柚子湯、菖蒲湯などで入浴を楽しめるように支援をしている。入浴したくない人には好みの入浴剤の使用や時間の変更、声かけの工夫をして支援をしている。体調に応じて清拭やシャワー浴など個々に応じた入浴の支援をしている。 | |
| 47 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | これまでの生活習慣や夜間の状態や日々の体調を把握し、体調の状態により日中でもゆっくり休息ができるよう配慮している。 | | |
| 48 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ファイルに薬情報を閉じ込み職員がいつでも確認できるようにしており、必要に応じて協力医に事態の報告を行っている。また、服薬ミスが起きないよう2重のチェックを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの趣味や好物、希望を聞きながら、個々にあった活動を支援し楽しく過ごせるよう支援している。 | テレビやDVD視聴、本を読む、新聞を読む、生け花、書道、新幹線(エバゲリオン)見物、ぬり絵、折り紙、季節の飾り物(七夕、クリスマスツリーなど)、ラジオ体操、紙コップタワー、口腔体操、スロー体操、嚥下体操、ビーチボール投げ、脳トレ(漢字、計算)、下膳、テーブル拭き、ランチマットの準備、食器洗い、ジャムづくり、洗濯物たたみ、拭き掃除、稲刈り、野菜の収穫、テラスでのお茶会、季節の行事(豆まき、ひな祭り、餅つき)、法人の夏祭りや文化祭への参加など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換などの支援をしている。 | |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は体調を考慮しながら散歩や玄関前でお茶を飲みながら日光浴を行い、季節に合った外出行事や食事会を行っている。また、家族との外出の機会が持てるよう家族に声掛けや支援を行っている。 | 周辺の散歩、みかん狩り、梨狩り、季節の花見(コスモス、チューリップ、菜の花、菖蒲等)、ドライブ(日の山公園、海峡タワー等)、外食の他、家族の協力を得ての外出、外泊、馴染みの美容院の利用、墓参り、結婚式や法事への参加など、戸外に出かけられるよう支援している。 | |
| 51 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理は施設で行っている。外出時に買い物をするときは支払いは職員が援助している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | 5 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人が希望があれば電話はできる。手紙や年賀はがきなど希望に応じて準備し、家族とのやり取りができるように支援している。 | | |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間には花・習字・作品、外出行事の写真など思い出の品物を展示し、季節を感じ外の風景を見れるよう工夫している。 | 広い共用空間には、大きなソファやベンチ、椅子を配置し、スロー体操や歩行訓練等活動しやすい工夫がしてあり、運動後は思い思いの場所でゆったりと過ごしている。壁面には季節を感じることができる折紙作品や七夕飾り、行事の写真が掲示してある。台所は利用者が食器洗いや下膳がしやすいように工夫してあり、ご飯の炊ける匂いがして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。 | |
| 54 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間では自由に好きな場所に座り、気の合った者同士が会話を楽しんだり、一人のんびり過ごすことができるよう工夫している。 | | |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 持ち込み家具や調度品は本人や家族と話し合いで使い慣れたもの、愛着のある物などを持って来て頂き、居心地がよく過ごせるよう支援していく | テレビ、タンス、衣装ケース、衣装掛け、三段棚、机など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや家族の写真、折り紙の作品などを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。 | |
| 56 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に過ごせるようバリアフリーの床と各所に手すりが設置してあり、各自の機能に合った物品を準備し、声掛けや見張りをしながら自立支援を行っている。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|----|------|------|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | | | |

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム フェニックスの里

作成日: 平成 28 年 12 月 6 日

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 36 | 災害時、利用者が避難する為の地域との協力体制及び災害・避難訓練の実施が不十分である。 | 事業所内で行われる避難訓練に職員及び利用者が参加し、初期消火や避難誘導・地域住民との連携を図ることを目指す。 | 事業所内で行われる災害・防災訓練に職員・利用者が参加し初期消火や避難誘導を体験する。 地域で行われる行事や防災訓練・認知症徘徊模擬訓練に参加して地域の特性を知り、住民と協力体制を持つようにする。 運営推進会議に自治会長・民生委員以外の地域住民も参加する。 | 1年 |
| 2 | 24 | 利用者や家族のニーズ把握に努める。 | 本人や家族の希望、意向を聞く機会を持つ。 | 職員は日常生活の場で本人や家族と接する機会をより多く持てるように部屋や衣類の整理の時、又、面会時は同席し意向の把握に努める。 誕生会・外出行事などに家族に声掛けし、参加を促し、触れ合う機会を多く持つ。 | 1年 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。